

危険予測学習の進め方(例) — 停車車両の追い越しの危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
<p>①交通状況の読み取り (個人～発表)</p>	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・言葉で表現し、発表させる。 (道路の状況、周囲の車両の状況、自転車の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 停車中の車の車道側を追い越そうとしている。歩道は狭く通れない。 反対車線には車が見える。本人は、急いでおり、スピードが出たまま、車の脇をすり抜けようとしている。
<p>②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)</p>	<p>このまま自転車で車を追い越すと、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る危険・事故をできるだけ多く発見・予測させ板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・車の運転者の立場に立った危険性も予測させたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
<p>③回避方法の考察</p>	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにすると危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由も明らかにさせる。
<p>④まとめ</p>	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「前と後ろの車に気を付ける」「車を追い越す時はゆっくり進む」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

<p>安全上の望ましい行動</p>	<p>① 停車車両の横を通行するときは、後方から来る車や前方から来る車と衝突する危険性がある。 停車車両がある場合は、できるだけ車両の左側を通行する。また、歩道へ入ることができるところであれば、無理をせずに安全に歩道を押して歩く。(教則第3章第2節1(4)、2(9)参照)</p> <p>② やむなく右側を通行するときは、必ず一時停止し、後方・前方の車両について安全確認を十分に行う。その上で通行する。</p> <p>③ 後方から車両が来ている場合は、その車両が通過してから通行する。</p> <p>④ 停車車両を降りる人は、後方の交通を十分確認しないままドアを開ける場合がある。また、停車している車が急に発進したり、バックしたりすることも考えられる。 このため、必ずスピードを落として、危険を予測し、安全を確認し通行する。(教則第3章第2節4(3)参照)</p> <p>⑤ 車両の陰から人が飛び出したりすることも予測されるので、十分注意する。(教則第3章第2節4(3)参照)</p>
-------------------	--